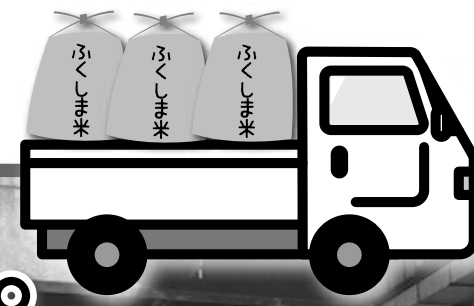


大阪に支援のお米を。

西淀川フードバンク実行委員会レポート



福島から
届いたお米
ありがたい

国がやらないなら農民連がやります。

コロナ禍で仕事を失うなど、毎日の食事を満足に食べることができない生活に困窮する方々の声が聞かれます。福島県農民連はお米の支援を会員に呼びかけ、届けられた米約6トンを子どもの貧困問題大阪ネットワークを通じ府内7ヶ所に届けました。この“おとどけ便”活動、同ネットワーク副理事長藤永のぶよさんにレポートを寄せていただきました。

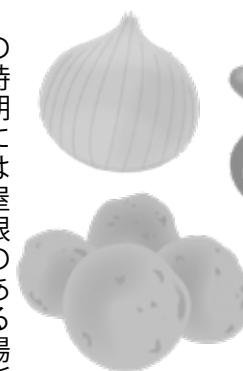


300人の行列

基本セットの中身



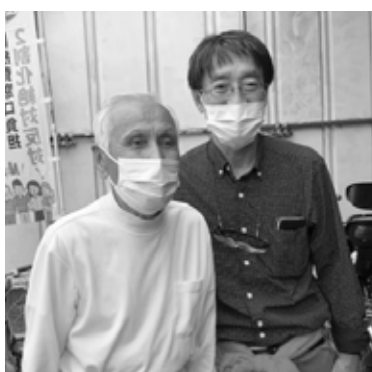
大量に並んだ基本セット



300人の長い列
新型コロナウイルスがまだまだ猛威を振るっている大阪。2021年6月5日、大阪市西淀川区で4回目となる「西淀川フードバンク・食料無料市場」が西淀川フードバンク実行委員会の主催で開催されました。開始1時間前から300人を超える住民が列をなし、その数に圧倒されました。高齢者だけではなく、若い世帯、子どもたちの姿が目立ちます。人の波を90人の若いボランティアさんが手際よく捌いていました。

きつかけは 親子の餓死事件

事務局を担う西淀病院医師の長瀬文雄先生は「きつかけは親子の餓死事件です。非正規労働が増え、そこにコロナが追い打ちをかけ、食べるものもなく、追い詰められている人が多くいます。最初はお寺の境内をお借りしていましたが、梅雨



左が町会長の大垣さん
右が長瀬先生

の時期には屋根のある場所が必要だと、町会長さんの力を借りました。食材は、区域内に工場がある「グリコ」や生協、何よりも福島からのお米が大きな力になりました。実行委員会に参加し、尽力されているこの地域の町内会長大垣純一さんは「病院の先生たちからフードバンクの主旨をお聞きし、ええことや！協力したいと思って、会場借入の折衝やビラを回覧板に入れて知らせるなどしました。福島県の農家さんから貴重なお米を送って頂いたそうで、嬉しいことですね」と、清々しい笑顔です。会長さんの話から、フードバンクが近隣住民の総意で実行されていることがわかります。

福島からの 「命のお米」 550人の手に



この間同フードバンクには約2トのお米が届けられました。会場からは「お米はここだけではなく、もっと困っている此花区や東淀川区のみなさんにもお分けするつもりです」、「今回、遠く離れた住之江から自転車で来られた方がいて、生活の大変さを実感しました」と話が聞かれました。会場ではお米・カップみそ・佃煮・缶詰など基本セットを

500セット準備。合わせて全ての参加者に大阪の農民組合からの野菜やカップ麺、お菓子、水、ジュース、生理用品、シャンプーなどが雑貨も準備されました。お米は、すべての人にいきわたるように1kg袋にしたそうです。この準備にも多くのボランティアの皆さんが参加しています。事務方の矢野さんは「西淀病院の看護師さんなどボランティア延べ130人で2日前から準備しました」と、この運動の意義をみんなで共有しています。この日準備した基本セット500では足りず、急ぎよ追加し550セットを普及されたそうです。参加者は「ありがたいです」と言葉少なに語られます。参加者にはアンケートをお願いし後ほど集計されます。

私たち「子どもの貧困問題大阪ネットワーク」は4年前の2017年秋に設立しました。子どもの貧困率実質全国一の大阪、子どもの貧困は大人の貧困です。また、非正規率全国一の大阪では、飲食店の営業中止措置など、コロナの影響をまともに受け失業者が増えています。生活困窮者への支援は、本来国・地方自治体の仕事です。しかし、待っていない、子どもや最貧家庭などへの支援のあり方を、考えていきたいと思っています。

子どもの貧困問題大阪ネットワーク
副理事長 藤永のぶよ

農民連フラッシュ flash

あだたら食農 schoolfarm 本格始動！

学舎（まなびや）が完成し、あだたら食農 schoolfarm お披露目会を行いました。この事業の目的を地域の方々に知って頂き、ここを拠点に新たな農と食の未来を作る人と食べる人が共に作る決意を参加者で確認しました。三保恵一・二本松市長、金子信博・福大食農学類教授が参加され期待と抱負の挨拶を頂きました。



17年目！ 九条田んぼ 県北

5月29日、桑折町で17回目の九条田んぼの田植えが行われました。今年植え付けた文字は「海に捨てるな汚染水」。福島から汚染水の海洋放出反対、憲法九条は世界の宝と声を上げました。



太陽光発電用地をお貸しいただける方を募集しています。

- ① 約2000～3000㎡の遊休地
- ② 日当たりがよい
- ③ 宅地、雑種地、林地、原野、農地などの地目の土地
- ④ 賃貸条件：100円/坪（年）

ご連絡いただければ、現地を確認させていただきます。



【連絡先】福島農民連産直農業協同組合 担当：佐々木健洋
Tel 024-546-7229 fax 024-546-8804
メールアドレス：stake@vmail.plala.or.jp